



江別ユネスコ協会事務局だより 2020年9月23日号

◇江別ユネスコ協会事務局/067-0074江別市高砂町24-6 教育委員会生涯学習課内(担当:見上 381-1069)

コロナ禍の中「北海道・北東北の縄文遺跡群」の現地調査を実施！

日本政府が2021年登録をめざして2020年1月16日に推薦書を提出した世界遺産候補「北海道・北東北の縄文遺跡群」の現地調査が、9月4日～15日の期間、ユネスコの諮問機関イコモス（ICOMOS=国際記念物遺跡会議）の調査員によって、予定どおり実施されました。今回の調査員は、オーストラリア国籍の専門家が派遣され、青森県の三内丸山遺跡に手始めに、青森・秋田・岩手・北海道の4道県の17の遺跡を巡回して、9月13日には伊達市の北黄金貝塚を調査し、14日に岩手県の御所野遺跡を調査して、全行程を終了しました。

9月16日に4道県と文化庁は、青森県庁において記者会見を開き、「遺産の価値について、調査員には一定の理解を得た」との調査への感触を公表しました。この現地調査に基づく勧告が2021年5月頃に行われると、6～7月に開かれる第45回世界遺産委員会の審議で登録が決まりますが、本年6月に中国・福州市で開催される予定だった第44回世界遺産委員会の延期が4月14日に発表されたままになっている現在、第45回の開催がいつ、どこになるか、見通しありません。

次の世界遺産候補選定のための文化審議会の開催は見送り！

世界遺産の候補を日本政府からユネスコへ推薦する場合は、文化遺産は文化庁が選定作業を行います。通常は、前年の3月末日までに各自治体から提出された推薦書素案をもとに、7月に文化庁が文化審議会に推薦候補選定に関する諮問を行い、9月の世界遺産条約関係省庁連絡会議での協議を経て、翌年の2月1日までに正式推薦書をユネスコ世界遺産センターへ提出しています。

2020年については、新型コロナウイルスの影響により、文化審議会の開催に十分な時間を確保できないことから、文化庁は毎年7月に行っている文化審議会への諮問を見送ることにしたと、6月29日に発表しました。2020年3月末日までに自治体から提出された推薦書素案は、「佐渡鉱山の遺跡群（新潟県）」「彦根城（滋賀県）」「飛鳥・藤原の宮都（奈良県）」の3件です。

第44回・世界遺産委員会の開催を待つ「奄美・沖縄」はどうなる？

世界遺産候補「奄美、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の登録審査は、本年6月に中国・福州市で開催予定の第44回世界遺産委員会の延期で、宙に浮いたかたちですが、開催地を変更しての委員会開催はまだ決まっていません。

2011年のバーレーン開催予定の第35回委員会が中止の際は、パリのユネスコ本部で開催しましたが、本年はヨーロッパもコロナの渦中にあるので、ユネスコ本部での開催は行わないことになりました。2003年の中国・蘇州市で開催予定だった第27回委員会がサーズの流行で中止になっていますから、中国での世界遺産委員会の開催予定は、よくよく感染症の流行に妨害されるようです。

小樽で開催予定の「第54回・北海道ユネスコ大会」は1年延期！

本年の全道大会は、10月10日（土）に小樽市色内のグリーンストーン（旧渋沢倉庫）において開催の予定でしたが、コロナ禍のため本年度は中止になりました。今後の対策として、今回の開催準備の成果を活かして、来年の全道大会を小樽市で開催することはできないか、協議を重ねてきた北海道ユネスコ連携と小樽ユネスコ協会は、本年計画された内容をそのまま次年度に実施することで、基本的に合意しました。期日については未定ですが、2021年秋季に行われる見込みです。

